

2023年度日系社会研修修習コース一覧

所 属 セ ン ター	実 施 形 態	修 習 年 度 採 取 有 無	区 分	No.	分 野	研 修 制 目 和 文	研 修 制 目 英 文	人 数 受 入 上 下	来 日 日	修 了 日	機 関 団 体	機 関 団 体 英 語 記 載	機 関 団 体 URL	担 当 者 名	NAME	E-mail	現 職・資 格・知 識	学 歴	経 験 年 数	年 令	日 本 語 能 力	英 語 能 力	①目 録	②成 果	③計 画（内 容）	備 考		
九州	集団	無	継続	C31	民間セクター開発	日本的モノづくり技術	"Monozukuri" Technology at Japanese Manufacturing Site	8	下	1/8	2/1	公益財団法人 北九州国際技術協力協会	Kitakyushu International Techno-cooperative Association	http://www.kita.or.jp	高岡 久敏	TORIKAI Hisatoshi (Mr)	torikai@kita.or.jp	(日系)製造企業、業界団体等に所属している製造管理・監督者、普及指導者	大卒、専門学校卒	3年	特に指定なし	N3	通訳配座可能性有 教授: 日本語、英語、韓国語、ポルトガル語	1. 日本のモノづくりの要件を理解する 2. 日本の品質管理、生産性管理技術や方法を習得する。 3. 日本の生産性向上のための戦略的計画が策定される。 4. 上記を統合し、Q.C.D (Quality, Cost, Delivery) 向上のための戦略的計画能力を身につける。 5. 日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習得できる 6. 最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 7. 九州大学病院および隣接施設における内視鏡検査の見学と討論 8. 研修後にも研修内容を用いた早期胃癌の発見と治療法を学ぶ	1. 講義: 日本のモノづくり (文化、思想、考え) 2. 講義: 品質管理、生産性管理の歴史、最新の品質管理、生産性向上の戦略的計画 3. 講義: 設備改善による予防保全 など 4. 学術研究: SS, KAIZEN実践工場、先端技術工場 など 5. 問題解決の進め方 (アクションプラン作成) およびプレゼンテーションのやり方			
九州	集団	無	継続	C32	保健医療	早期胃癌の内視鏡診断と治療	Endoscopic diagnostics and therapeutics of early gastric cancer	6	上	5/7	6/10	国立大学法人 九州大学	Kyushu University	http://niza.uhin.ac.jp/imed/en/index.html	森山 智彦	MORIYAMA Tomohiko (Dr)	iko.moriyama.153@kyushu-u.ac.jp	医師 (内視鏡経験が1年以上で年齢55歳以下) 経験年数: 医学部卒業後3年以上かつ臨床経験3年以上	大卒程度	3年	55歳以下	不問	技術研修は実施	1. 日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習得できる 2. 最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 3. 九州大学病院および隣接施設における内視鏡検査の見学と討論 4. 研修後にも研修内容を用いた早期胃癌の発見と治療法を学ぶ	1. 講義: 最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学: 九州大学病院および隣接施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習: 結腸モルビタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4. 学術研究: 日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学術、研究会への参加 5. 発表: 病院内で研修内容を発表			
沖縄	集団	有	継続	C33	その他	沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化	Effective use of soft power and regional revitalization through cultivation of Okinawan roots	12 (15名まで可)	下	10/1	10/31	特定非営利活動法人レキオウィングス	NP0 Lequi Wings	https://lequiowings.org/	串間 武志	KUSHIMA Takeshi (Mr.)	info@lequiowings.org	沖縄県民人会参加者や日本語学習者、地域社会のリーダー等。帰国後も積極的に関与する意欲のある方が望ましい。	不問	不問	20歳~60歳	不問	通訳配座可能性有	沖縄のアイデンティティが強化され、地域のソフトパワーを活かした研修員所属の日系企業での活躍が期待される。 3. 自らに関わる観光の課題を把握し、対応策の案がまとまる	行政: 沖縄県庁表敬、沖縄県の取組「世界のウチナーンチュウ」 「世界のウチナーンチュウの日」 (沖縄21世紀ビジョン) 等 歴史・文化: 沖縄の歴史、伝統文化 (エイサー、空手、工芸) 等 平和: 沖縄の心、平和教育、平和祈念資料館、平和の礎 等 リーダーシップ研修: 地域活性化 (沖縄県北部での事例研修、地域活性化事業案件の視察) 等 観光: 沖縄の観光の現状が理解される ① 沖縄の観光の現状が理解される ② 沖縄の観光の現状が理解される ③ 自らに関わる観光の課題を把握し、対応策の案がまとまる	1. 講義: 沖縄観光の概要、マーケティングの基礎、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な事例紹介 2. 実習: マーケティングの基礎、那覇市内の観光実地調査、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な観光プログラム 3. 視察: 首里城、美ら海水族館、南部戦跡など 4. 演習: プロジェクト・サイクル・マネジメント (課題の分析から解決手段の提案、分析結果の発表と討議)	1. 講義: 沖縄観光の概要、マーケティングの基礎、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な事例紹介 2. 実習: マーケティングの基礎、那覇市内の観光実地調査、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な観光プログラム 3. 視察: 首里城、美ら海水族館、南部戦跡など 4. 演習: プロジェクト・サイクル・マネジメント (課題の分析から解決手段の提案、分析結果の発表と討議)	他の日系研修との連携あり 本研修を並行して実施される「地域ブランドを活用した6次産業化とスマート農業による日系農業コミュニティ活性化及びネットワーク強化」コースとの併修後の相乗効果を企図して、一部合同で講義、実習を行う。
沖縄	集団	無	継続	C34	民間セクター開発	沖縄のツーリズム・ストラテジー	Tourism Strategy of Okinawa	10	下	1/8	2/2	特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ	Okinawa Environment Club	https://npo-oc.com/	金城 明子	KINJO Akiko (Ms.)	Akiko.Kinjo@npo-oc.com	必要資格: 観光業に携わっているもの	不問	2	不問	日常会話程度以上 (英語ができればなおよい)	通訳配座可能性有	1. 沖縄の観光の現状が理解される 2. 最新の観光の現状が理解される 3. 自らに関わる観光の課題を把握し、対応策の案がまとまる	1. 講義: 沖縄観光の概要、マーケティングの基礎、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な事例紹介 2. 実習: マーケティングの基礎、那覇市内の観光実地調査、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な観光プログラム 3. 視察: 首里城、美ら海水族館、南部戦跡など 4. 演習: プロジェクト・サイクル・マネジメント (課題の分析から解決手段の提案、分析結果の発表と討議)			
沖縄	集団	無	継続	C35	農業開発	地域ブランドを活用した6次産業化とスマート農業による日系農業コミュニティ活性化及びネットワーク強化	Nikkei Agricultural community and network enhancement through "6th Industrialization" and "Smart farming" based on local branding experience in Okinawa	15名まで	下	10/1	10/31	特定非営利活動法人レキオウィングス	NP0 Lequi Wings	https://lequiowings.org/	串間 武志	KUSHIMA Takeshi (Mr.)	info@lequiowings.org	日系社会で農業に関する経験があるもの	不問	不問	20歳~60歳	不問	通訳配座可能性有	1. 地域ブランドを活用し、農産物に付加価値をつけ販売を行う6次産業化のノウハウが習得される 2. AIやIoTを活用したスマート農業についての事例を学ぶ 3. 研修員が、日本における中米産日系農業関係者等の双方の人的ネットワークが強化される 4. 沖縄の企業とのビジネスの可能性を自国の日系農業コミュニティ活性化が提案される	1. 講義: 沖縄観光の概要、マーケティングの基礎、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な事例紹介 2. 実習: マーケティングの基礎、那覇市内の観光実地調査、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な観光プログラム 3. 視察: 首里城、美ら海水族館、南部戦跡など 4. 演習: プロジェクト・サイクル・マネジメント (課題の分析から解決手段の提案、分析結果の発表と討議)	沖縄県における地域ブランドを活用した6次産業化及びスマート農業への取り組み「挑戦」を明確にし、その「挑戦」に対応する「経験」を共有する。この「経験」を自国に「移植」し、自国で日系農業コミュニティ (アクションプラン) につなげ、更に研修を通じて出会う人々と「ネットワーク」の構築を研修コースの運営方針とする。これを実現するための研修内容は以下のとおり。 1. 地域ブランドを活用し、農産物に付加価値をつけ販売を行う6次産業化のノウハウが習得される 2. AIやIoTを活用したスマート農業についての事例を学ぶ 3. 研修員が、日本における中米産日系農業関係者等の双方の人的ネットワークが強化される 3-1 沖縄の企業と中米産の日系農業関係者等の双方の人的ネットワークが強化される 3-2 中米産をはじめ、研修を通じて出会う多くの人々と人的ネットワーク構築について検討する 4. 研修の企業とのビジネスの可能性等を含む自国の日系農業コミュニティ活性化が提案される 4-1 日系農業コミュニティ活性化を目指すプロジェクトの策定方法を習得する 4-2 自国で実施するアクションプランを策定する		
沖縄	集団	有	新規	C36	保健医療	「SS-KAIZENを通じた病院における安全とサービスの質向上」	Improving safety and quality of services in hospitals through SS-KAIZEN	6	下	11/5	12/8	株式会社ティーエーネットワークキョーギ	TA Networking Corp.	http://www.ta-networking.com	佐藤 結香	Sato Yuka	sato.yuka@ta-n.com	・医師、看護師、薬剤師等の医療従事者・事務管理職 (医療施設において管理者経験があるもの) もしくは、将来管理者として従事する可能性があるもの。 (帰国後から、所屬先で中心となりSS-KAIZENの実施、普及を期待するための)	大学卒業程度	実務経験3年以上	応募時点で約25歳以下	不問	不問	研修員が、研修を通してSS-KAIZENを理解し実践することで、病院の安全とサービスの質の向上に貢献する。	1. 講義: SS-KAIZENにおけるマネジメント、SSの概要、院内感染予防からみたSS、院内感染対策、手術室、医療器材とSS、SSからKAIZENへKAIZENとは、KAIZENステップ、KAIZENツール、KAIZEN業務プロセスの見直し、問題分析と目的分析、ハローワーク、フラッシュポイントチャート、日本の医療制度、カイゼン医療経営、リーダーシップ論、TQMとは、メンターシップ、サポートシステム、バーベキュー、モチベーション管理、モチベーションシフト、患者安全、医療安全とSS-KAIZEN、危険予知トレーニング、プロジェクト・サイクル、マネジメント、チームビルディング、PDCAと組織運営、SWOT分析、院内実地研修の確立、モニタリングシステムの構築、チェックリストの活用 2. 実習: ジョブレポート作成 (ポスター形式)、手術室、プロブレムソルビング、チームビルディング、危険予知トレーニング (KYT)、具体的実践計画の策定 3. 見学: 病院 (SS-KAIZEN-TQMの展開、情報システム管理、安全管理) 等 4. 発表: ジョブレポート (ポスター形式)、所屬先におけるSS-KAIZENの事例紹介	1. 講義: SS-KAIZENにおけるマネジメント、SSの概要、院内感染予防からみたSS、院内感染対策、手術室、医療器材とSS、SSからKAIZENへKAIZENとは、KAIZENステップ、KAIZENツール、KAIZEN業務プロセスの見直し、問題分析と目的分析、ハローワーク、フラッシュポイントチャート、日本の医療制度、カイゼン医療経営、リーダーシップ論、TQMとは、メンターシップ、サポートシステム、バーベキュー、モチベーション管理、モチベーションシフト、患者安全、医療安全とSS-KAIZEN、危険予知トレーニング、プロジェクト・サイクル、マネジメント、チームビルディング、PDCAと組織運営、SWOT分析、院内実地研修の確立、モニタリングシステムの構築、チェックリストの活用 2. 実習: ジョブレポート作成 (ポスター形式)、手術室、プロブレムソルビング、チームビルディング、危険予知トレーニング (KYT)、具体的実践計画の策定 3. 見学: 病院 (SS-KAIZEN-TQMの展開、情報システム管理、安全管理) 等 4. 発表: ジョブレポート (ポスター形式)、所屬先におけるSS-KAIZENの事例紹介		
札幌	個別長期	無	継続	L1	保健医療	作業療法学	Occupational Therapy	1	上	5/7	2/1	札幌医科大学	Sapporo Medical University	https://web.sapmed.ac.jp/	作業療法学科 仙石 泰仁	SENOKOU Yasuhiro (Mr)	senkou@sapmed.ac.jp	現地の作業療法士資格または理学療法士資格を有している者 (学生は同等程度の学力)	大学卒業程度	1年以上	不問	N3以上	英語でのコミュニケーション可	作業療法教育および臨床実習	1. 成人中枢神経障害、運動器障害、発達障害、精神障害に対する作業療法 2. 高齢者の在宅・施設生活での作業療法 3. 作業療法研究法 4. 理学療法研究法	1. 学部・大学院授業の聴講 2. 臨床作業療法の見学 3. 作業療法関連学会、技術講習会への参加 4. 日本人学生・大学院生との交流会	研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種 (麻疹・風疹・水痘・ムンプス) 抗体検査結果に基づいたワクチン接種、B型肝炎抗体価が陽性、COVID-19ワクチン3回接種を終えている必要がある	
札幌	個別長期	無	継続	L2	保健医療	理学療法学	Physical Therapy	1	上	5/7	2/1	札幌医科大学	Sapporo Medical University	https://web.sapmed.ac.jp/	理学療法学科 長瀬 耕太	WATANABE KOTA (Mr)	wkotat@sapmed.ac.jp	現地の理学療法士資格を有している者 (学生は同等程度の学力)	大学卒業程度 学生は同等程度の学力	実務経験3年以上	不問	N2	不問	基礎的理学療法を理解し、日本における理学療法への役割や機能を説明できること。 6. 現地の関連施設の見学	1. 学部・大学院授業の聴講 2. 臨床理学療法の見学 3. 理学療法関連学会、技術講習会への参加 4. 理学療法関連実習への参加 5. 日本人学生・大学院生との交流会	研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種 (麻疹・風疹・水痘・ムンプス) 抗体検査結果に基づいたワクチン接種、B型肝炎抗体価が陽性、COVID-19ワクチン3回接種を終えている必要がある		
札幌	個別長期	無	継続	L3	農業開発/農村開発	ドローン・GIS技術による自然資源管理手法	Natural Resource Management by using Drone, GIS technology	4	上	上半期いずれかで相談可		語農学園大学	Rakuno Gakuen University	https://www.rakuno.ac.jp	小川 健太 / 教授 森 夏恵	OGAWA Kenta (Mr) / MORI Kaori (Ms)	tech@rakuno.ac.jp	表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。リモートセンシングソフトの操作については問わない。	不問	不問	不問	英語でのコミュニケーション可	農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、ドローン技術、マイクログラウドリモートセンシング技術、ドローンの活用技術を習得する。	環境空間情報学研究室、環境リモートセンシング研究室において開講している。基礎的GIS、応用GIS、リモートセンシングによる空間情報の科学、リモートセンシング基礎演習など関連科目を履修するとともに、高度なGIS技術を習得する専門演習に参加し、技術の向上を図る。また、出身国 (地域) の環境GISセンター、衛星画像解析センター、ソフトの移動解析手法を習得する。研究発表、学会等で発表する。また、東京、京都などの関連地を訪問し、今後の協働研修のネットワークづくりを行うとともに、GIS・リモートセンシングを活用した森林管理 (RED) や野生動物管理に関するJICA研修へも参加し、研究及び情報交換を目的とした研修の一環は帰国後にも活用できるよう、本学が提供する。新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、来日しにくい場合は全ての研修内容をオンラインでも対応が可能である。また、本学では英語による講義も行われるため、必要最低限の日本語能力が十分である。				
札幌	個別長期	無	継続	L4	栄養改善	食品科学と栄養管理	Food Science and Nutrition Management	2	上	5/7	3/5	語農学園大学	Rakuno Gakuen University	https://www.rakuno.ac.jp	教授 石井 智美	ISHI Satomi (Ms)	ishii@rakuno.ac.jp	食生活、料理、栄養について関心を持っていること。	不問	不問	不問	不問	① 食品科学と栄養学の見地から、出身国の食文化の理解、実践的な日本の家庭料理の味の手伝い、高齢社会において食の改善を促し、日々の暮らしのQOL維持に尽力できる人材となる。 ② 生活習慣病予防の見地から、帰国後活用できる栄養学、公衆衛生、食生活、最新の世界の栄養状況を学ぶことと、最新の日本の栄養状況を学ぶこととを、そして身近な食文化の理解を通じて、食生活の改善を促し、日々の暮らしのQOL維持に尽力できる人材となる。 ③ 日本の専門料理、家庭料理、日本の食文化を学ぶ。	特別な機器、食材を使わずに日常の栄養管理を提案し、かつ正確に行うことができる力が付く。実践的な日本の家庭料理の味の手伝い、高齢社会において食の改善を促し、日々の暮らしのQOL維持に尽力できる人材となる。 ② 生活習慣病予防の見地から、帰国後活用できる栄養学、公衆衛生、食生活、最新の世界の栄養状況を学ぶことと、最新の日本の栄養状況を学ぶこととを、そして身近な食文化の理解を通じて、食生活の改善を促し、日々の暮らしのQOL維持に尽力できる人材となる。 ③ 日本の専門料理、家庭料理、日本の食文化を学ぶ。	研修員の希望を聞き、より帰国後の仕事に生かせるプログラムを作成して進める。前半は、大学の専攻分野、研究発表のゼミナール等に参加し、食生活、栄養学について学ぶ。後半はより関心のある分野に力点を置いて実習を進める。科学的見地からの研究、栄養学、食生活、健康の調査に参加する。帰国後の実践、料理講習会を兼ねて、食生活の改善を促し、日々の暮らしのQOL維持に尽力できる人材となる。定期的に習得状況を確認、相談しながら研修を進める。食生活に関する科学的な分析、研究に関わる研究も併せて実施することが可能で、各種の学術へ参加し、希望があれば研究成果の発表会も行う。帰国後の各研修、調査の継続に向けての検討、準備を行う。	本研修はある程度までは英語、スペイン語で対応できますが、日本語を習得する意欲がある方を希望		
横浜	個別長期	-	継続	L5	都市開発・地域開発	日本の伝統的造園施工技術	Traditional technology for construction of Landscape Architecture in Japan	1	上	上半期いずれかで相談可	来日日学校法人 東京農業大学	Tokyo University of Agriculture Educational Cooperation	https://www.nodai.ac.jp/cip/cip	鈴木 貴次郎	SUZUKI Kojiro (Mr.)	kojiro@nodai.ac.jp	造園、園芸、農業、都市計画の研究・教育や職業に携わっている方	大学卒業程度	1	不問	N2	英語でのコミュニケーション可	各国でつくられてきた日本庭園をはじめとし、各空間にみられる植栽・施工管理に活用できる日本の伝統的造園や施工管理技術の基礎を習得する。口	① 主要な日本庭園で使われる材料 (植物、無機物) の習得 ② 植物管理の意義と手法の習得 ③ 基本的な造園技術 (竹垣等) の習得	1. 講義: ①日本庭園の構成、②日本庭園の材料 (植物・無機物)、③日本庭園の材料の扱い方、④都市空間への応用技術 2. 実習: 植物管理 (剪定) の手法、竹垣の製作技術、土壌管理・分析法 3. 見学: 東京国立、京都、地方 (石川県や鹿児島県、岐阜県) の日本庭園	応募締切は5月末日コースの締切日です。5月8日に来日の場合は技術研修期間は9/30までの予定です。6月及び7月来日となった場合も、同様に約5か月の研修を受講いただきます。		
横浜	個別長期	-	継続	L6	環境開発	家畜衛生虫病および人獣共通衛生虫病の診断予防技術	Diagnosis and control for epizootic and zoonotic parasitoses	2	上	5/7	2/6	麻布大学	Azabu University	https://www.azabu-u.ac.jp/eng/lish/cip	平 健介	TAIRA Kensuke (Mr.)	taira@azabu-u.ac.jp	生物学の基礎知識を持つ者、畜産あるいは公衆衛生に関わる者、臨床検査技師や薬剤師の資格保持者等。口	不問	不問	※大学卒業程度 大学あるいは大学院を卒業している方。	英語でのコミュニケーション可 ※一般的なコミュニケーションが可能な方。	1. 動物衛生および公衆衛生に関する知識の習得 2. 動物衛生および公衆衛生の診断・予防技術の習得 3. 食品由来病原体制御のための国際間連携ネットワークの構築 4. 日本食文化に関する畜産や水産業発展のための技術の習得 5. 日本の文化、社会および国際的立場についてのより一層の理解。口	1. 講義: 動物 (魚類を含む) の寄生虫病および人獣共通衛生虫病の診断予防法、病原、宿主、発生節動物物などの検査法および同定法などについて 2. 実習: (1) 糞内虫卵検査 (浮遊法、沈澱法、定量的検査法)、(2) 子虫培養 (びん培養、濾紙培養、瓦版培養)、胃腸内線虫感染子虫の形態による同定、(3) 鳥糞寄生虫の観察と同定、(4) 寄生虫の作成、観察と同定: 肝臓、絨形吸虫、二口吸虫、縷虫、日本住血吸虫など、(5) 中間宿主体内の吸虫の発生観察: ミラシジウム、スポロソスト、レジア、セルカリア等、(6) 寄生虫の作成と観察: ペネテン虫、単包虫、多包虫等、(7) ダニ類の観察と宿主同定: ダニ、ヒゼンダニ、ワケムシ、イエニ等、(8) 昆虫類の観察と同定: ノミ、シラミ、ハジラミ、カ、ゴキブリ等、(9) 分子生物学的手法 (PCR、Real-time PCR、LAMP法) を用いた寄生虫同定法、(10) 寄生虫感染に対する宿主免疫反応の観察。 3. 見学: 家畜保健所、家畜診療所、食肉衛生検査所、水産試験場、大学の研究センター等。 4. 学術: セミナー: 国内学会参加、研究発表のセミナー参加。 5. 発表: 学内あるいは国内の研究学会や学術、最終日の研修報告。	研修受け入れ時期や期間については相談に応じている。申請書では2人を受け入れるとしているが、1人でも受け入れ可能。口			

2023年度日系社会研修研修コース一覧

所管センター	実施形態	修業年度選択有無	区分	No.	分野	研修科目和文	研修科目英文	人数	受入上下	来日	終了	提案団体	提案団体英語表記	提案団体URL	担当者名	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経歴	年齢	日本語能力	英語能力	①目標	②成果	③計画(内容)	備考		
43	横浜	個別長期	継続	L7	環境管理	Agro-Biodiversityの保全を目指した土壌管理手法	Soil Management Technique for Conserving Agro-Biodiversity	2	上	5/7	11/15	特定非営利活動法人 環境修復保全機構	Institute of Environmental Rehabilitation and Conservation	https://www.erecon.jp/	河邊 久美子	KAWABE Kumiko (Ms.)	hq-erecon@nifty.com	環境や農業に関連する知識または経験を有するものが望ましい	大学卒業程度	不問	不問	不問	不問	英語で資料読解、レポート作成	研修目標は、持続可能な農法を習得するとともに、生産参加型手法による土壌管理技術や生物多様性の保全について習得することである。	中南米で適用可能な持続可能な農法を習得するとともに、生物多様性に配慮しつつ長期的に農業生産を維持できる土壌管理技術を習得できる。 1. 中南米で適用可能な持続可能な農法を習得する。 2. 土壌管理および生物多様性の保全に関する体系的な知識を習得する。 3. 生産参加型手法を習得する。 4. 生物多様性評価を含む土壌分析技術を習得する。	1. 講義 (Lectures): 全て英語での開講科目 2. 実習 (Field Practices): 有機農業資材の作成法、有機農業実習 等 3. 調査 (Research): 土壌動物の多様性に基づいたAgro-Biodiversityの評価 4. フィールドワーク (Field Activities): 日本の里地里山における生物多様性を考慮した土壌保全対策の視察 5. 実験 (Experiments): 土壌分析に関する専攻実験、基礎実験 6. セミナー (Seminar): 大学院生や専門家との意見交換 等	Information on 1. organized and 2. co-organized bodies 1. Institute of Environmental Rehabilitation and Conservation (ERECON) founded in 2000 is the international non-profit organization (www.erecon.jp) registered in Tokyo Metropolitan Government as well as Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). This institute has been advancing various international extension programs in the fields of sustainable development in agriculture. 2. Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture (Tokyo NODA). Tokyo NODA founded in 1891 is one of the oldest universities in agricultural field (www.noda.ac.jp) and strong in agricultural and agro-environmental education and research.	
44	関西	個別長期	新規	L8	法・司法	知的財産活用に関する基礎研修	Basic Skills of Intellectual Property Utilization	2	上	5/7	10/6	大阪工業大学大学院知的財産研究科	Osaka Institute of Technology, Graduate School of Intellectual Property	http://www.oit.ac.jp/ip/graduate/	内藤 浩樹	NAITO Hiroki (Mr.)	hiroki.naito@oit.ac.jp	大学の学部レベルの教育を受けていること、法律、経済、技術の分野において、少なくとも1年以上の経験を有すること。知的財産分野における経験があれば望ましい。	大卒	1	不問	N4	英語での資料読解、発表、レポート作成	(1) 知的財産制度の基礎知識を修得すること。 (2) 特許権、商標権についての、出願から権利取得までに必要な知識を獲得し、将来的にその知識を実務において活用することができる。 (3) ライセンス契約、訴訟をはじめとする知的財産の活用、実務に必要な具体的な実務を理解することができる。 (4) 研修員自身が設定する知的財産の課題についての理解を深め、自国においてその課題を解決するために必要な知識や提案を述べていく。	(1) 基礎知識の習得—講義を中心に、特許・実用新案、意匠、商標、著作権法、不正競争、知的財産契約、国際条約、知的財産戦略、知的財産の経済効果などを学ぶ。 (2) 特許権、登録商標、判例の調査分析演習—技術データベース、法情報データベースを用いて、必要な情報を収集し、分析する。 (3) 訪問調査—日本国内の関係機関(特許庁、裁判所ほか)、関係団体(発明協会などの専門機関)、企業、専攻学生(代表者)、中小企業、特許法律事務所)などを訪問し、ヒアリング調査を行う。 (4) 研究—研修員自身が設定した知的財産に関する課題について、教員の指導を受けて、研究を遂行する。				
45	中国	個別長期	継続	L9	農業開発・農村開発	日本式の高品質肉牛生産のための効率的・効果的な生産、繁殖、健康管理	New efficient and effective production, reproduction and health management for high-quality beef based on Japanese Cattle farming system	1	上	5/7	2/23	国立大学法人 山口大学	Yamaguchi University	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/	角川 博哉	Hiroya Kadokawa (Mr.)	hiroya@yamaguchi-u.ac.jp	・基本的な動物についての知識を身に付けていること ・獣医師でなくても、畜産農家の子弟や畜産関係者や就農希望者であれば可能 ・異文化の中で多くの人と一緒に働くための適応力と協調性 ・好奇心旺盛で勉強意欲があること	大卒(相当)	不問	不問	不問	新基準N4レベルが望ましいが、英語でコミュニケーションができれば問題ない。	最新の畜産学・獣医学の知見の習得と共に、高品質畜産物の生産現場での実習につき、生産と共に調立させるべき繁殖管理も円滑に進めるための問題意識を抽出・分析する能力を習得し、新しい効率的な疾病予防、繁殖、衛生管理等を含む飼育体系を導入・展開するための基礎を習得する。	1.高品質畜産物を生産する上で求められる最新の畜産学、生理学、衛生学等の知識・生産効率向上と繁殖に関する知識・知見の習得、2.国際牛肉の格付け方法の習得、3.生産に関わる細胞や遺伝子について、分子レベルや細胞レベルでも家畜生産について考える能力の習得、4.牛肉生産施設訪問を通じた改善ポイントの習得。	1.最新の畜産学、生理学、衛生学等の講義と実習、2.牛肉の格付け方法、3.生産に関わる細胞の培養や遺伝子発現解析、4.臨床獣医師養成用の実習参加、5.牛肉生産施設訪問。			
46	中国	個別長期	新規	L10	保健医療	日本の看護技術・知見の習得及び日系アイデンティティの高揚	Acquiring Japanese Nursing Skills and Knowledge and Cultivating Japanese (Nikkei) Identity	1	上	7/23	1月	島根県	Shimane Prefectural Government	http://www.pref.shimane.lg.jp/	増田 祐子	MASUDA Ayako (Ms.)	bunka-kokusai@pref.shimane.lg.jp	・日系団体の青年部等に所属している者、または今後所属する意欲がある者 ・当該団体からの推薦を得られること (研修効果に鑑み、島根県人会等、島根県にルーツがある者が望ましい)	大卒(相当)	1	不問	N3程度以上が望ましい。	英語でのコミュニケーション可能	日本の大学や病院での講義及び実習を受けることで、日本の医療制度、看護技術の知見を習得するとともに、自身のルーツとなる土地や日本文化を知り、日系アイデンティティの高揚を図る。	1.日本の医療制度が理解される。 2.日本の看護技術・知見が習得される。 3.自国で応用可能な内容を整理し、実地となる土地や日本文化を知り、日系アイデンティティの高揚を図る。 4.日本の伝統文化等に関する知識を習得する。	1.大学における講義及び実習に参加 ①講義：大学にて講義に参加 ②実習：県内総合病院での実習に参加 2.病院での実習する部署で看護助手業務のサポートを行う。 3.日本文化等に関する視察・実習等 4.関係者への研修結果の報告			
47	中国	個別長期	継続	L11	農業開発・農村開発	観光果樹園経営及び果樹栽培技術に係る長期研修	Management of Tourist Fruit Farm and Cultivation Technique of Fruits (Long Term)	1	上	5/7	11/17	公益財団法人 ひろしま国際センター	Hiroshima International Center	http://hiroshima-ic.or.jp/	迫本 啓吾	SAKAMOTO Keigo (Mr.)	hioc12@hiroshima-ic.or.jp	日本語で研修受講が可能で語学力を有していること。	不問	不問	不問	N3以上	不問	1.果樹(イチゴ、スモモ、ブルーベリー、モモ、ブドウ等)の先進的栽培及び収穫に係る技術を習得する。2.加工技術と商品化、マーケティングのノウハウを習得する。3.観光果樹園の経営手法を習得する。	1.果樹栽培管理技術の向上、2.加工品の商品化、販売ルートの開拓、観光果樹園経営の成功。	平田観光農園の業務に従事し、実習を積み重ねて技術を習得する(最も重要な開花期の受粉から収穫が終わるまでを研修する)。			
48	中国	個別長期	継続	L12	農業開発・農村開発	伝統的産品を活用した地域ブランドの創出と地域の活性化	Developing a local brand and activating local community by utilizing the community's traditional products	1	上	5/7	11/10	公益財団法人 ひろしま国際センター	Hiroshima International Center	http://hiroshima-ic.or.jp/	迫本 啓吾	SAKAMOTO Keigo (Mr.)	hioc12@hiroshima-ic.or.jp	手書き、デザイン等の分野での地域産品の開発に関心があること。経験があれば、より高い研修効果を期待できる。	不問	不問	不問	N3以上	不問	1.「工房屋通帳布」における実習を通して尾道の地域産品(帆布)を活用した地域特産品の製造・販売・マーケティング等の取組みを学び、帰国後の日系社会における地域産品の再発見・活用につなげることを学ぶ。 2.「工房屋通帳布」や尾道の地域産品に取組む人々との交流を通じ、地域課題解決における住民の主体的な関与の大切さや地域活性化の案について知見を得る。	1.研修員に、「工房屋通帳布」の事例を通じて、地域資源の再発見と活用、地域特産品開発を通じた地域課題の解決、地域再生の知見が習得される。 2.研修員に、日本の地方コミュニティにおける課題(人口減少、アジェンディティの喪失、地域資源の活用等)を学ぶ。 3.研修員の母国において応用可能な技術、手法が整理される。 4.帰国後の具体的な活動計画が作成される。	1.講義：「工房屋通帳布」における地域特産品開発と地域再生の取組み。 2.調査：「UI」に「工房屋通帳布」における地域特産品の製造、販売、マーケティング等。 3.見学：関連団体の施設・活動。 4.演習：研修成果の振り返り。 5.発表：関係者への研修成果の発表。			
49	四国	個別長期	継続	L13	保健医療	歯科補綴学	Prosthodontics	2	上	5/7	3/6	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/	松香 芳三	MATSUMI Shozo (Mr.)	matsumi@tokushima-u.ac.jp	対象国における歯科医師免許	大学卒業	実務経験3年以上、実務経験、最終学歴後の実務経験等	不問	不問	不問	英語でのコミュニケーションが可能な程度であること。	歯科補綴治療に関する先進技術の習得と最新の知見を学習する能力を身につける。	1.最新の歯科補綴治療技術(接着ブリッジ、インプラント義歯、CAD/CAM等)の習得 2.上下歯のかみ合わせの状態に対する診断技術の向上 3.口腔顔面痛に対する治療技術の習得 4.金属アレルギーの治療技術の習得	教室主催のセミナー・論文抄読会への参加、マネキンを用いた基礎実習、コンピュータを利用した補綴装置の設計や削りだしの実習、関連学会への参加を予定している。また、現在教室で行われている研究(睡眠時ブラキシズムの解析、組織再生、金属アレルギー-痛、口腔顔面痛発症メカニズムなど)にも参加し、大学院進学が可能なように研究指導を行う。なお、受け入れ担当者は、日本補綴歯科学会、日本顎関節学会、日本口腔顔面痛学会、日本口腔リハビリテーション学会の指導員である。		
50	四国	個別長期	継続	L14	保健医療	歯科矯正学	Orthodontics	1	上	5/7	3/6	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/	田中 栄二	TANAKA Eiji (Mr.)	stanaka@tokushima-u.ac.jp	対象国における歯科医師免許	大学卒業	実務経験3年以上、実務経験、最終学歴後の実務経験等	不問	不問	N2	英語でのコミュニケーションがある程度可能であること。	矯正歯科治療に関する高度な技術の習得と最新の知見を学習する能力を身につける。	・最新の矯正歯科技術(リンガルブラケット矯正歯科治療、インプラント矯正歯科治療、外科的矯正歯科治療、口腔裂口裂傷、OTなどの画像データを用いた診断技術の向上) ・変形性顎関節症患者に対する治療技術の習得	エッジワイズに関するタイポドント実習、教室主催のセミナーや論文抄読会への参加、および関連学会への参加を予定。加えて、現在、当教室で進行している研究(変形性顎関節症の病態解明と治療法の開発、骨免疫学研究)にも参加してもらい、帰国後に母国で学位が取得できるように研究指導を行う。なお、本件担当者は、日本矯正歯科学会の指導員・認定医、日本顎関節学会の専攻員、指導員であり、厚生労働省の臨床研修指導員資格(外国人歯科医師指導資格)も有している。		
51	四国	個別長期	継続	L15	自然環境保全	自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	Research and edification on bio-composite materials aiming the conservation of natural environment	2	上	上半期いずれか	相談可	3/15	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/	長谷崎 和洋	HASEZAKI Kazuhiro (Mr.)	hasezaki@tokushima-u.ac.jp	理系大学で学在中または卒業	大学卒業	不問	不問	不問	不問	ポルトガル語で会話できる教員が在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問、スペイン語を話せる場合は、日本語能力試験N3以上(ただし、研修期間中の徳島大学が開催する日本語教室を必ず受講すること)。	全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。さらに、徳島大学での先進技術を知ること、日系社会の発展と移住先国の調和に貢献できる新しい取り組みを検討すること。	1.石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること 2.石油由来のプラスチックに代わるバイオ材料についての知識を得ること 3.最新のバイオ材料の研究動向を知ること 4.自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること	1.調査：教員から個別のレクチャー、学術論文読解、最新の研究動向を文献ベースで調査し、問題点の抽出ならび解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。バイオ複合材料の研究の分野であるエコマテリアル国際会議に参加し、最新の研究動向を情報収集し、大学院進学が可能なように研究指導を行う。 2.試作機開発：問題点を解決するためのバイオ複合材料の試作機について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する。 3.試作機開発：バイオ複合材料の試作機を行う。 4.分析：適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。 5.報告：まとめた分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。	応募締切は5月末日コースの締切日です。

2023年度日系社会研修研修コース一覧

所管センター	実施形態	修業年度選択有無	区分	No.	分野	研修科目和文	研修科目英文	人数	入上	下	来日	終了	提案団体	提案団体英語表記	提案団体URL	担当姓名	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経験年数	今年	日本語能力	英語他言語	①目標	②成果	③計画(内容)	備考	
52	四国	個別長期	無	継続	L16	地域開発・民間セクター開発	エコツーリズム産業における起業家育成	Entrepreneur education in the ecotourism industry	2	上	5/7	2/2	香川大学	Kagawa University	https://www.kagawa-u.ac.jp/	平見 尚隆	HIRAMI Naotaka (Mr)	hirami.naotaka@kagawa-u.ac.jp	大学でツーリズム或いは地域イノベーションなどを学習した経験があること、或いは、観光産業での実務経験があること。	大学で学習の機会概ね2年以上、観光産業の場合実務経験概ね2年以上程度とする。	不問	不問	不問	日本語検定2級以上、英語でのコミュニケーション能力がある場合(TOEIC 700点程度)は、必要要件としなない。	英語で研修を通じて得られるデータや知見に基づき、新規性のある自国でのエコツーリズムを提案できるレベルの力量を身に付けることを研修目的とする。その上で学内の発表イベントやGPECでのプレゼンテーションでの提案に対するフィードバックをベースに本国でのエコツーリズムに関する事業提案のブラッシュアップを行う。研修終了時には母国の日系社会で共感を得られ、事業開始に結び付けることができるレベルの提案に仕上げることを目標とする。	本事業提案の受入代表者である平見尚隆(香川大学創生学部教授)はスペイン語、英語(書き多読)が堪能であることから、大学で教鞭をとる傍らこれら中興来のエコツーリズム分野を多く担当し、本産業に関する調査・研究を行い、そのポテンシャルの高さを講演や論文を通して紹介している。平見氏は現在大学で産学連携推進やアントレプレナー教育に携わっており、新たな産業構築のための教育に尽力してきた。さらにJIOA日経戦略的グローバル・パートナーシップ研修プログラム事業で2017年から合計で16人のメキシコ人研修生を受け入れてきた実績がある(内4名は現在来日研修中)。日系社会研修事業では、この間に培われたアントレプレナー教育に関する講義やゼミを中心とした、教育プログラムをベースとした事業提案を行う能力を身に付けてもらう。その上で日本におけるエコツーリズムに対する期待と実態を調査頂き、現地社会でのあるべきエコツーリズムを提案できる技術と力量を身につけていただく。帰国後は現地日系社会を巻き込み、事業の具体化を進めることで、形式にとらわれない実質的な日米ネットワークの構築に結び付けていただく。	1. 来年度同時期に予定されているJIOA日経戦略的グローバル・パートナーシップ研修プログラム事業とできる限り並行して実行しようカリキュラム日程を調整、研修期間のシナジー効果を出していく 2. 創造工学部 造形・メディアデザインコースのエンジニアリングデザインスタジアム所属する学生と日系研修員との協働が期待される。研究と同時に日本の文化や若い世代の考え方を学ぶことも良い機会とする。 3. 起業家を目指す学生クラブの各部長との関係も構築する。 4. エコツーリズムに関しては、香川大学の講義の聴講及びゼミ形式での議論を進めていく。また、「新日本がグローバル研究」メンバーとの討論を設け、エコツーリズムに關しての理解を深める。 5. 主として中西両地方のエコツーリズムスポットを訪問し、日本のエコツーリズムの実態を知ってもらう。 6. Global First Penguin Club (GPEPC)のメンバーとのつながりも促す。コメントなどをもらいながら進めていき、研修終了時にはこのイベントで発表を行うことを目標とする。		
53	九州	個別長期	無	継続	L17	保健医療	早期胃癌の内視鏡診断と治療	Endoscopic diagnostics and therapeutics of early gastric cancer	1	下	下半期いずれかで相談可		国立大学法人九州大学	Kyushu University	http://plaza.umin.ac.jp/med/en/index.html	森山 智彦	MORIYAMA Tomohiko (Dr)	iko.moriyama_153@ku.kyushu-u.ac.jp	医師(内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下) 経験年数: 医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上	大卒程度	2年	60歳以下	不問	不問	技術研修は英語で実施	世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ。	1. 講義: 最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学: 九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習: 内視鏡を用いた内視鏡検査の観察 4. 学会参加: 日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表: 院内で研修内容を発表、自国の所属施設と接続しての研修報告	応募締切は10月末日コースの締切日です。	
54	沖縄	個別長期	無	継続	L18	都市開発・地域開発	ウチナーネットワークを活用した持続可能なコミュニティ運営	Sustainable community management using the Uchina network	2	上	7/23	1/23	一般社団法人世界若者ウチナーネットワーク連合会	World Youth Uchinanchu Association	https://wyua.okinawa/	比嘉 千穂	HIGA Chihoko (Ms.)	all@wyua.okinawa	県系社会で沖縄文化活動に関わっている。	不問	不問	想定年齢(20歳~40歳以下)	N3(同時並行し、会話力を重視)	英語でのコミュニケーション	研修員がウチナーネットワーク継承にかかわる運営管理の手法などを習得する。	1. 講義: 最新のウチナーネットワークの全体像が理解される。 2. 研修員に、若者を対象としたアイデンティティの強化にかかわる企画力やインフラネットワークを用いた具体的な活動計画を作成する。 ① 沖縄県内での地域活性化事例を参考に、研修員が、自国で対応可能なアイデアを考案する。 ② 研修員が、帰国後の具体的な活動計画を作成する。	1. 講義: 最新のウチナーネットワークの全体像が理解される。 2. 研修員に、若者を対象としたアイデンティティの強化にかかわる企画力やインフラネットワークを用いた具体的な活動計画を作成する。 ① 沖縄県内での地域活性化事例を参考に、研修員が、自国で対応可能なアイデアを考案する。 ② 研修員が、帰国後の具体的な活動計画を作成する。	1. 講義: 最新のウチナーネットワークの全体像が理解される。 2. 研修員に、若者を対象としたアイデンティティの強化にかかわる企画力やインフラネットワークを用いた具体的な活動計画を作成する。 ① 沖縄県内での地域活性化事例を参考に、研修員が、自国で対応可能なアイデアを考案する。 ② 研修員が、帰国後の具体的な活動計画を作成する。	本研修は、実習・OJTが中心となり相互の言語コミュニケーションが必要となる。その他: Word, Excelの基本的な操作ができる。イベント・ポスターやSNSで活用するバナー制作等デザインに興味がある。
55	札幌	個別短期	無	継続	S1	農業開発・農産物開発	ドローン・リモートセンシング技術による持続型森林・農地管理手法	Sustainable Resources Management of Forest and Agriculture by using Drone and Remote Sensing technology	4	上	上半期いずれかで相談可		酪農学園大学	Rakuno Gakuen University	https://www.rakuno.ac.jp	小川 信太/教授 森 夏郎	OGAWA Kenta (Mr) / MORI Kaori (Ms)	tech@rakuno.ac.jp	表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。(リモートセンシングソフトの操作については問わない)	不問	不問	不問	不問	英語でのコミュニケーション可	農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、GPS技術、マイクロ波リモートセンシング技術、ドローンの活用技術を習得する。	環境空間情報学研究室、環境リモートセンシング研究室、フィールド情報学研究室において開講している高度なGIS技術を習得する専門演習に参加し、技術の向上を図る。また、出身国(地)の実地のGISデータ、衛星画像を使い、ソフトの操作方法のみならず、GISデータを収集・整理する。また、GIS、リモートセンシングを活用した森林管理(RFOD)や野生動物管理に関するJIOA研修へも参加し、研究及び情報交流を図る。なお、使用する機器やPC-トレーニングコース及びソフトの一部は、帰国後にも活用できるように、本学が提供する。新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、来日しがたかない場合は全ての研修内容をオンラインでも対応が可能である。詳しくは、様式-1のE-mail: tech@rakuno.ac.jpに直接問い合わせください。	応募締切は5月末日コースの締切日です。		
56	札幌	個別短期	無	継続	S2	栄養改善	食品科学と栄養改善	Food Science and Nutrition Improvement	2	上	6/18	7/19	酪農学園大学	Rakuno Gakuen University	https://www.rakuno.ac.jp	教授 石井 智美	ISHI Satomi (Ms)	ishii@rakuno.ac.jp	なし	不問	不問	不問	N3	不問	栄養学的見地から日本の専門料理、家庭料理について学び、日本の食文化に対する理解を深め、日本の食文化に対する可能な料理講習会を運営できる技術を習得する。その料理講習会を通じ、今日の日本の食における実態について最新の知見も紹介出来る。日系社会の活性化に貢献できる力を身につける。	日本の食における特色として、食材の扱い方、味付けを科学的な見地から学ぶ。専らでは日本の調味料の産地で販売されていることから、身近な材料で調味料の代用、工夫をする。具体的な方法(乾菜類の活用、乾物の作り置き、乾野菜などのペーパーの取り方)を学び、日本食の味の特徴を学ぶ。合わせて日本の食文化の歴史も取り上げ、食文化の発展や食生活の向上も紹介出来る。日系社会の活性化に貢献できる力を身につける。	研修員は本申請者の研究室に籍を置き、大学での研修である強みを生かして、調理技術、食生活など研修員が興味を持った講義を受けて知識を増やし、各種の専門実習も参加し、研修は総論・実習・個別指導の3段階で進める。また、実習施設を持つ。日本の食品成分表、国民健康・栄養調査を用いた最新の栄養に関する知識を学ぶ。研修員の研究室の演習、セミナーに参加し、学生とともに各種の調理講習会を開催し、食生活の向上も紹介出来る。日系社会の活性化に貢献できる力を身につける。	日本語が少ししか話せても、日本の食文化について興味があれば、英語、スペイン語である程度まで対応可能です。	
57	帯広	個別短期	無	継続	S3	保健医療	地域包括医療(看護と介護)	The Community-based Integrated Care System (Nursing and Caring)	3	下	10/1	11/9	学校法人 日本赤十字学園 日本赤十字北海道看護大学	Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing	http://www.rehokkaido-cn.ac.jp/	辻 裕昭	TSUJI Hiroaki (Mr)	tsujii@rehokkaido-cn.ac.jp	医療関係機関に属する者(看護師・介護士)	高校卒業程度	3	不問	N4程度	医療専門用語の使用が想定される	1. 講義: ①日本の地方都市における看護と介護の現状と課題 ②母子栄養改善の手法、食育への取り組み ③成人病予防の取り組みと成果 ④健康レベルに応じた適切な医療ケアの視点 2. 視察: 他団体の施設、活動(公的機関、民間) 3. 演習: 研修員の職務に準拠している問題を分析し、日本の手法を活用した上でアクションプランを作成する。 4. 発表: 内部および研修関係団体・機関を作成する。	本研修実施の意義/現地日系社会への裨益効果 本研修は、日本の地方都市における地域包括医療への取り組みについて、講義、実習、視察を通して、地域の統一的医療を目指す。地域医療に係る幅広い知見および技術を取得し、各国での実践により地方医療の基礎を構築することで、乳幼児から高齢者まで、健康状態に応じた適切なケアへの対応が可能となり、将来の生産力の死亡率低下や成年・老年の予防医療の促進、末期患者への緩和ケア等幅広い医療ケアに寄与できると考える。 当大学は草の根技術協力にて、モンゴルを対象とした介護研修を実施した経験と、関連機関である北海道赤十字病院にて実施したブラジルを対象とした末期患者への緩和ケアにおける医療教育を担当した経験を有しており、また地域医療の中心としてネットワーク地域の産学連携、介護施設、習熟者が連携した研修の実施が可能であることから、地域包括医療に係る技術・知見を習得した人材を育成することが可能であり、研修員帰国後は即戦力として日系社会に貢献が可能である。			
58	北陸	個別短期	無	継続	S4	教育	「日系アイデンティティ涵養・日英史教育教材作成」演習(その1)	Seminar on the Cultivation of the Japanese Identity and the Production of Teaching Materials on the Japanese Immigrants' History (1)	2	上	5/7	7/18	国立大学法人金沢大学	National University Corporation Kanazawa University	http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/eg/sie/	太田 亨	OTA, Akira (Mr.)	akirao@staff.kanazawa-u.ac.jp	日系文化継承教育に携わるか、今後担う可能性がある者	大学卒業程度	3	N/A	N/A	N/A	日本の歴史や文化、社会的背景、現代日本の実情などに関する理解を深め、質の高い日系文化継承教育教材を制作する。	・動画・漫画・動画など、日本(特に金沢を含む北陸地方)だからこそ入手可能な視覚教材資料の探索と収集 ・教材制作に関わる各種スキル(制作、編集、管理・更新方法など)の修得 ・研修員の指導対象となる日系子弟を想定し、学齢児童教育や語学教育現場研修を受けた教育技術のスキルアップ ・日本文化、日本史、現代日本の社会実情などについて、体験学習を交えた深い理解 ・研究授業のプレゼンテーション、あるいは研究レポートの日・英・西又は日本語での記述 ・習ったの活用により、修得した技術や成果を研修員の母国の日系社会で広く効果的に還元	1. 講義: 日本文化概論、日本史、日本文化史、日本社会概論、日本伝統芸能概論 2. 演習: 日本文化・社会プログラム、日本伝統芸能演習、等 3. 視察: 人間社会学域学校教育学部附属学校、放送大学、石川県を始めとした北陸各地の文化施設訪問(美術館、博物館、等)。 (必要に応じて) 研修員の研修内容に関わる地域への研修旅行 4. 発表・セミナー・外部研修: (必要に応じて) 研修員の研修内容に関わるものへの参加を検討 最終発表: 学内で研修最終日に実施予定(閉講式も兼ねる)	研究テーマについて事前に太田先生に相談すること。	
59	北陸	個別短期	無	継続	S5	教育	「日系アイデンティティ涵養・日英史教育教材作成」演習(その1)	Seminar on the Cultivation of the Japanese Identity and the Production of Teaching Materials on the Japanese Immigrants' History (1)	2	下	10/1	12/11	国立大学法人金沢大学	National University Corporation Kanazawa University	http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/eg/sie/	太田 亨	OTA, Akira (Mr.)	akirao@staff.kanazawa-u.ac.jp	日系文化継承教育に携わるか、今後担う可能性がある者	大学卒業程度	3	N/A	N/A	N/A	日本の歴史や文化、社会的背景、現代日本の実情などに関する理解を深め、質の高い日系文化継承教育教材を制作する。	・動画・漫画・動画など、日本(特に金沢を含む北陸地方)だからこそ入手可能な視覚教材資料の探索と収集 ・教材制作に関わる各種スキル(制作、編集、管理・更新方法など)の修得 ・研修員の指導対象となる日系子弟を想定し、学齢児童教育や語学教育現場研修を受けた教育技術のスキルアップ ・日本文化、日本史、現代日本の社会実情などについて、体験学習を交えた深い理解 ・研究授業のプレゼンテーション、あるいは研究レポートの日・英・西又は日本語での記述 ・習ったの活用により、修得した技術や成果を研修員の母国の日系社会で広く効果的に還元	1. 講義: 日本文化概論、日本史、日本文化史、日本社会概論、日本伝統芸能概論 2. 演習: 日本文化・社会プログラム、日本伝統芸能演習、等 3. 視察: 人間社会学域学校教育学部附属学校、放送大学、石川県を始めとした北陸各地の文化施設訪問(美術館、博物館、等)。 (必要に応じて) 研修員の研修内容に関わる地域への研修旅行 4. 発表・セミナー・外部研修: (必要に応じて) 研修員の研修内容に関わるものへの参加を検討 最終発表: 学内で研修最終日に実施予定(閉講式も兼ねる)	研究テーマについて事前に太田先生に相談すること。	

2023年度日系社会研修修習コース一覧

所管センター	実施形態	修習年度	区分	No.	分野	研修科目 和文	研修科目 英文	人数	入上	下	来日 日	終了 日	提案団体	提案団体 英語表記	提案団体 URL	担当者名	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経歴 年数	年齢	日本語 能力	英語 能力	①目標	②成果	③計画(内容)	備考	
60	北陸	個別短期	無	継続	S6	保健医療	Medical treatment (Anesthesiology)	2	下		10/1	11/2	金沢大学	Kanazawa University	https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/	谷口 巧	Taniguchi Takumi (Mr.)	hosomu@adm.kanazawa-u.ac.jp	必須資格：麻酔科専門医師であること(医師免許OR取得済みであること)のいずれかの、将来的のある医師 経験年数：6年以上 英語能力：研修に耐えうる英語力が必要	大卒	6	50歳まで	N3	要(研修に耐えうる英語力は必須)	同研修で得た知識や経験を当該地域一人一人の患者の全身状態、社会的特性に配慮しそれぞれに最適な医療を提供する計画と実行する能力の修得	①日本の周術期管理の全体像を理解する ②日本の周術期管理の技術・知見が得られる ③①、②を基に、自国で応用可能な技術・手法等を整理する ④帰国後の具体的な活動計画を作成する	1. 講義： ①日本における周術期管理の現状 ②周術期管理の実態 ③周術期管理(麻酔、集中治療、緩和ケア)の知識、手法 ④患者・認知症、障害の理解 ⑤心臓生体教育コース呼吸療法コースに参加させる。 ⑥直面上している問題を分析し日本の手法の適応を検討し、アクションプランを作成する ⑦学業・セミナー：計画 ⑧発表：内部	研修において臨床実習は行わない。 ※選考書類以外の提出物 研修終了、来日前に研修内容がわかる書類の提出を必要とし、同院が定める基準に満たない場合、フテン後の上、理髪証明書 の提出を必要とする。(麻酔、麻酔、水痘、流行性下痢、8型肺炎) https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/research/training/ https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/research/training/doc/intern/08_unyou2021.pdf	
61	横浜	個別短期	-	継続	S7	社会保障	高齢者介護サービスにおける人材育成システム	2	下		12/3	3/2	株式会社つくばエデュース	Tsukuba Educe Co.Ltd.	http://i-jrelay.jp/	飯岡 達郎	TATSURO Iioka (Mr.)	iioka1225@gmail.com	実際に家庭及び地域社会で、介護を必要とする高齢者と接した経験 日系社会でこれらから高齢者介護に携わろうとする意志があること 本研修を受講するとともに、実体験と照らし合わせて理解する必要があるため	不問	不問	不問	N3	不問	研修員が当該地域で適応可能な、要介護高齢者に対する介護サービスの技術及び知識を習得し、同様の技術、知識を現地に広めることを目的とする。	①研修員に、日本の高齢者福祉制度の全体像が理解される ②研修員に、日本の高齢者介護手法の技術・知識が習得される。 ③研修員に、日本における介護の基本的資格である介護職員初任者研修のスキルアップ・技術・知識が習得される。 ④研修員が前3項を元に、自国で応用可能な介護技術・介護人材育成のシステムを構築する方法を習得する。 ⑤研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。	1.講義(介護職員初任者研修講座を受講) ①日本の高齢者介護福祉制度の概要 ②高齢者の日常生活自立の重要性とケアの視点 ③コミュニケーション技術 ④生活支援技術の理解 ⑤生活支援技術講習 2.実習・OJT 認知症利用者への接し方 3.見学 他団体の施設、活動(公認機関、民間) 4.演習 直面上している問題を分析し、日本の手法の適応を検討し、帰国後の活動計画を作成 5.その他 介護職員の資格試験実習 6.学業等 介護事業者の団体である茨城県福祉介護事業協同組合の研修会に参加 7.発表 内部及び茨城県福祉介護事業協同組合		
62	横浜	個別短期	-	継続	S8	社会保障	日本食の介護食についての知識並びに技能習得	2	下		12/3	3/2	株式会社つくばエデュース	Tsukuba Educe Co.Ltd.	http://i-jrelay.jp/	飯岡 達郎	TATSURO Iioka (Mr.)	iioka1225@gmail.com	実際に家庭及び地域社会で、介護を必要とする高齢者と接した経験 日系社会でこれらから高齢者介護に携わろうとする意志があること 本研修を受講するとともに、実体験と照らし合わせて理解する必要があるため	不問	不問	不問	N3	不問	研修員が当該地域で適応可能な、日本食に関する知識(下準備、調理方法等)、介護食に関する知識(食材選び、調理方法等)を習得することを目的とする。	①研修員に、日本食の知識、味、作り方の基本が習得される ②研修員に、日本食の介護食の知識、味、作り方が習得される。 ③研修員が前2項を元に、自国で応用可能な日本食・日本食の介護食を作る方法を習得する。 ④研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。	1.講義(介護職員初任者研修講座テキストを使用し指導する) ① 食事に関連したところから自立に向けた介護 ② 食事摂取に関する基礎知識(生活支援) 2.実習・OJT 日本食・介護食の作り方、食事介助に関する実習 3.見学 グループ法人の施設、食事形態 4.演習 帰国後の活動計画の作成 5.その他 研修員による食事会の実施 6.学業等 なし 7.発表 内部及び茨城県福祉介護事業協同組合		
63	横浜	個別短期	-	継続	S9	自然環境保全	環境教育指導者養成研修	2	下		10/1	11/29	公益財団法人キープ協会	Kiyosato Educational Experiment Project, Inc	https://www.keep.or.jp/	鳥屋尾 健	TOYAO Takeshi (Mr.)	t_toyao@keep.or.jp	環境系・教育系いずれかの大学またはそれに相当する学校の卒業生が望ましい。	高校卒業程度	不問	不問	N3	不問	研修員が環境教育指導者(インタープリター)として、必要な基礎技術と知識を取得する。	・環境教育の概要を理解する。 ・インタープリテーション(定義、種類、原則、資質、素材の理解、対象の理解、コミュニケーション、プログラムデザイン等)の基礎知識を理解する。 ・キープ協会の実地を参考に、自国で学校等の現場で環境教育プログラムを行うことができる。	1.講義・実習 環境教育概論、インタープリテーション概論、日本の環境教育、八ヶ岳の自然、 ・プログラム実施と相互評価、体験学習法、プログラムデザイン、スライドプログラム、月例観察会等 2.実習 プログラムの準備・実施・評価(幼児・小学校・中学校・大人一般・シニアデザイン等)の基礎知識を理解する。 ※実習が研修の8割を占めます。日々の実践を体験しながら、その体験から気づきから学びを深め、理論と実践がつながるようにしていきます。 3.見学 環境教育施設(ビジターセンター) 4.発表 研修最終日		
64	横浜	個別短期	-	継続	S10	保健医療	高齢化対策・生活習慣病予防	3	上		5/7	8/8	順天堂大学	Juntendo University	https://med.juntendo.ac.jp/research/cour/se/jist/globalhealthresearch.html	MOYOTUKI Yuasa (Mr.)	moyuusa@juntendo.ac.jp	保健医療福祉分野に中心にある研究者、実践者や、行政関係者が望ましい。	大学卒業程度	1	不問	不問	英語でコミュニケーション	高齢化対策・生活習慣病予防に関する公衆衛生学的理論の科学的把握方法を学ぶこと。また、必要基礎技術と知識を取得する。	①日本やアジア地域各国の高齢化対策の現状と課題を把握する ②基礎疫学・統計手法(データの集め方、研究デザインの立案、基本統計表、差の検定、分散分析、多変数形質分析、など) ③公衆衛生学に基づく政策手法(PRECEDE-PROCEEDモデル、ヘルスプロモーション、パブリック・アフォーチ、ポピュレーション・アプローチなど)	1. 講義：①基礎統計の解説、②医学部公衆衛生講義の聴講(日本語能力上可能な限り) 2. 実習：①大学院レベルのゼミ、②抄読、③月例勉強会への参加 3. 演習：①実地調査への参加、②データ入力、③データ解析(SPSS、SAS、Stata) 4. 発表：大学病院、東京都杉並区、静岡県伊豆市、長野県佐久など保健医療福祉関係者 5. 発表：学内研究発表会、学会での発表(予定)			
65	横浜	個別短期	-	継続	S11	教育	共感理解教育と日本文化活動	3	下		12/3	2/15	公益財団法人 世界子ども財団	Public Interest Incorporated Foundation for Global Children	https://kokusaigakuen.ac.jp http://www.fgc.or.jp	YOSUKE Ishii (Mr.)	fgc@fgc.or.jp	教育および青少年育成に関わる方、または、基礎知識、知見が必要となる方。	不問	1	不問	N3	不問	研修員が、共感理解教育の理論、及びものを学べるよう講義及び実習で研修する。	研修計画(内容)： 1.講義および実習 開業園の星組グループの各教育施設および事業所において実施。 学校での授業参加を通じての教育実習の要素と、学びを深めるための講義、およびグループの多様な専攻の体系的なバランスを組み合わせる。星組グループが長年掲げてきた、お互いを認め合い、学びを深めていく「共感理解教育」をキーワードに、各校舎の特色ある教育プログラムを知るとともに、参加し、実践していく。 【研修実施を予定しているグループ校舎、事業所】 ・星組国際高等学校(広域通信制高校、日本全国に展開) ・星組高等学校(全日制、生徒の個性に合わせた指導が特色) ・青少年発達センター(幼少教育) ・世界子ども財団(国際支援、国際交流、災害支援を実施) ・FM湘南マッシュウエイブ(全国で唯一の学校が運営するコミュニティラジオ) 2.日本文化体験 ①国際グループの各校舎が取り組んでいる特色ある日本文化体験プログラムで学ぶ。(例)和太鼓、習字、農業体験、日本の唱歌、伝統的スポーツの別荘、神奈川県内を中心に歴史的名所を訪ね、文化体験プログラムを通して日本文化を学ぶ。 (例)地引網、みかん狩り、小田原城、横浜中華街、横浜外国人墓地資料館、鎌倉歴史博物館など ②研修員のルーツを学ぶプログラム ③研修員に展開する星組グループのネットワークを生かし、応募者のバックグラウンドに応じてルーツを知る研修を計画する。 (例)沖縄にルーツを持つ研修員に対し、星組国際高等学校沖縄学習センターと連携して現地訪問、学校での実習、沖縄の歴史や言葉の再建プロジェクト等について学ぶ。 4.成果発表 JICAにおける成果発表を行うほか、星組グループの各事業所において、自ら企画した授業を実施することを目標とする(時期や回数等は進捗に応じて調整する。少なくとも後半に訪問する学校においては実施する)。星組グループとしても研修生の活動をFTRラジオやニュースレター、またwebなど、グループの持つ各媒体で発信していく。				
66	横浜	個別短期	-	継続	S12	教育	特別支援教育	Special Needs Education	3	下		12/22	学校法人 国際学園	Kokusai Gakuen Education Institute	http://www.seisa.ac.jp	OHYA Yoshitaka (Mr.)	v_ohya@seisa.ac.jp	継承日本語教育実践教師、日系人学校教師、大学教員・研究員、または、現在、特別支援教育に携わっている者(帰国直後からの研修成果活用を期待するため)	大学卒業程度	3	不問	N3	不問ですが、できればよい望ましい	研修員が特別支援教育についての知識と実践力を習得し、当該国の教育現場に還元できるよう講義及び実習で研修する。	1.日本の特別支援教育の全般を理解し、自国の動向先での教育現場で応用できる技術の習得。 ②特別支援教育の実現現場を体験し、自国の実践現場での教育手法の習得。 ③自国での特別支援教育の在り方を比較検討する技能の習得。	1. 講義：①日本の特別支援教育の概要 ②関連科目 ③特別支援教育の指導方法 2.実習 個別化指導計画(Individualized Education Program(IEP))に関する研修 3.実習 学校施設での授業見学、実習、現場教師からの実習指導 4.見学 本人・本人の学校施設、関連機関の教育施設も見学 5.発表 クラス単位での実習と個別指導の実践をする 6.発表 最終研修では、教育実習同様、研究授業を行う	・応募締切は10月末日コースの締切日です。		
67	横浜	個別短期	-	継続	S13	教育	日系社会の幼児教育	Early Childhood Education of the Japanese descendants community	3	下		12/22	学校法人 国際学園	Kokusai Gakuen Education Institute	http://www.seisa.ac.jp	OHYA Yoshitaka (Mr.)	v_ohya@seisa.ac.jp	必要資格：継承日本語教育実践教師または日系幼稚園教師 帰国直後からの研修成果活用を期待するため。 経験年数：2年以上。基礎知識、知見が必要となるため。 日本語能力：N3以上。日本語の講義等を受講すること、日本語で日誌をある程度書けること	大学卒業程度	1	不問	N3	不問ですが、できればよい望ましい	研修員が、幼児教育の理論、及びものを学べるよう講義及び実習で研修する。	①日本の幼児教育の基礎理論、教育課程及び指導技術の習得。 ②教育実習と教職実践演習を通じて幼児教育専門技術の習得。 ③日本の幼児教育を参考にし、自国での指導に応用可能なアイデア・企画力及び技術の習得。 ④研修員が帰国後の具体的な活動計画の立案・作成する技術の習得。 ⑤日本文化活動を通じた日本人としてのアイデンティティの向上。	1. 講義：幼児教育系科目 2. 実習：音楽実技、体育実技、美術実技、レクレーション実技等 3. 演習：横浜市青葉区幼稚園(幼稚園類型認定こども園)にて教育実習 4. 実習：社会福祉法人「星組」が運営する保育園見学 5. 学業・セミナー：計画 6. 発表：学内、研修最終日	・応募締切は10月末日コースの締切日です。		
68	横浜	個別短期	-	継続	S14	その他	日系団体若手リーダー育成	Training for young leaders in Nikkei organization	4	下		10/1	11/3	公益財団法人海外日系人協会	The Association of Nikkei & Japanese Abroad	https://www.jadesas.or.jp/	中井扶美子	NAKAI Fumiko (Ms.)	kenshu@jadesas.or.jp	帰国後、研修成果をドミニカ共和国日系団体に還元する。ドミニカ共和国日系団体活動や運営に積極的に参加している者もしくは参加する意を有する者。	不問	不問	概ね40歳未満	不問	不問	研修員が、持続可能な団体運営の方法に関する知識を習得し、ソーシャルビジネスの手法を用いた日系団体による地域活性化のための新規事業計画を作成する。	1.研修員に、非常利団体の継続的運営管理方法が習得される。 2.研修員に、様々な非常利事業(教育、文化、福祉等)に関する企画立案方法が習得される。 3.研修員に、中小企業の海外進出に関する知識が習得される。 4.研修員に、情報発信手法が習得される。 5.研修員に、日系団体及び地域活性化のための活動案を作成する。	1. 講義：持続可能な団体運営に関する基礎知識、ソーシャルビジネス手法、企業の海外ビジネスへのアプローチ手法、DXによる社会課題解決、SDGsと社会貢献等 2. 演習：日本文化体験、ファシリテーション手法、広報活動手法(フンドレイジング) 3. 見学：文化・教育・まちづくり系NPOや企業、移住関連施設等 4. 発表：研修最終日	原則、日本語で実施。スペイン語の通訳を確保し予定
69	横浜	個別短期	-	継続	S15	その他	日系資料館運営改善に向けた資料の有効活用	Effective use of museum materials in the nikkei associations	4	下		1/8	2/2	公益財団法人海外日系人協会	The Association of Nikkei & Japanese Abroad	https://www.jadesas.or.jp/	中井扶美子	NAKAI Fumiko (Ms.)	kenshu@jadesas.or.jp	日系資料館もしくは日系団体の活動に1年以上関わっている者	高校卒業程度	1	不問	不問	不問	研修員に、資料館運営のための知識及び資料の収集・保存・展示技術などが習得され、研修員の属する館の資料管理、資料保存が促進され、展示へ活用されることにより、魅力ある資料館活動が期待される。また、資料館業務に関する情報交流し、将来的に海外移住資料館との企画展覧会や共同展示を目指すことが促進される。	(1) 研修員に、講義や観察をとおして、資料館活動、運営に関する知識が習得される。 (2) 研修員に、資料の収集・保存・展示技術に関する知識及び技術が習得される。 (3) 研修員に、海外移住資料館を通じた各資料館所蔵品等とのネットワーク構築される。	1. 講義 資料館の運営及び資料収集・整理/IT技術を用いた資料館管理と展示/教材開発の経緯と活用事例等 2. 実習 資料館の運営に関する知識及び技術に関する資料の展示と資料の梱包と輸送方法/資料撮影の基礎/企画展覧会原稿作成等 3. 見学 アメリカカリフォルニア州、和歌山市民図書館、和歌山大学	日本語能力について追加の日本語力が望ましいが、参加する研修員の日本語レベルに応じて通訳を確保する予定
70	関西	個別短期	無	継続	S16	保健医療	鍼灸学	Acupuncture and Moxibustion	2	上		6/18	9/15	学校法人 関西医科大学	Kansai University of Health Sciences	http://kansai.ac.jp/	NOGUCHI Hideya (Mr.)	noguchi@kansai.ac.jp	・医療系(鍼灸を学ぶ)の資格を有していることが望ましい。 ・鍼灸学などに関する知識を有していることが望ましい。	不問	不問	不問	日本語の高い理解力が必要である程度日本語が堪能	教材 日本語 ※経穴のみポルトガル語、スペイン語あり	鍼灸学についての基本的な知識・技術を確立することができる。また、日本で行われている伝統的な鍼灸治療についての知識・技術の概要を理解できる。 鍼灸治療の実地見学などの機会を通じて、高度な知識の習得や鍼灸臨床の技能に、帰国してからも中東社会で研修成果を社会に還元する。	関西医科大学付属鍼灸治療所において、伝統的鍼灸治療法、現代医学的鍼灸治療法、経絡テスト、特殊鍼法(耳鍼、埋鍼、鍼灸、手鍼)などを専任教員の指導下で学ぶ予定。(但し、患者さんへの治療は行わない実習である)			

2023年度日系社会研修研修コース一覧

所管センター	実施形態	修業年度選択有無	区分	No.	分野	研修科目和文	研修科目英文	人数	入上	下	来日	終了	実施団体	実施団体英語表記	実施団体URL	担当教員	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経験年数	年齢	日本語能力	英語能力	①目標	②成果	③計画(内容)	備考	
71	中国	個別短期	無	継続	S17	民間セクター	日系アイデンティティの涵養を通じた日系団体の活性化	Revitalization of Japanese Heritage Group through Cultivating Japanese (Nikkei) Identity	3	下	1/8	1/24	鳥根県	Shimane Prefectural Government	http://www.pref.shimane.jp/	足立 晴香	ADACHI Haruka (Ms.)	bunka-kokusai@pref.shimane.jp	・日系団体の青年部等に所属している者、または今後所属する意思がある者で、当該団体からのご推薦を得られること(研修効能に鑑み、鳥根県人会等、鳥根県にルーツが有る者が望ましい)	不問	不問	不問	N4程度	不問	自身のルーツとなる日系アイデンティティが強化され、自国の日系団体の中核的存在として同団体の活動を活性化させるための企画・実践力を身につける。	1.自身のルーツとなる土地への理解を深める。2.日系アイデンティティが強化される。3.日系団体等の活性化のための活動に関する企画・実践力が強化される。4.研修を通して交流を深めた日本人との新たな日系ネットワークを構築する。	1.講義、実習(伝統芸能・文化の観察等、地域・団体の活性化等に関する講義、地元青年等との意見交換・交流等) 2.所属する日系団体の活性化のための活動計画の作成、3.関係者への研修結果の報告。		
72	中国	個別短期	無	継続	S18	保健医療	理学療法による機能回復訓練	Rehabilitation training with physical therapy	1	下	10/1	11/17	広島県	Hiroshima International Center	http://hiroshima-ic.or.jp/	浪本 啓吾	SAKAMOTO Keigo (Mr.)	hioc12@hiroshima-ic.or.jp	理学療法士の資格・経験のある者(自国での資格可)	不問	不問	不問	N2以上	不問	障害者などに対して、身体機能の改善や日常生活活動能力の向上などを目的としたリハビリ訓練の手法を習得する。	理学療法の様々なアプローチからのリハビリ訓練に関する手法。	障害者(主に成人)を対象とした理学療法による機能回復訓練の現場での実習を通じて、訓練の流れやシステム、疾患別アプローチについて学ぶ。		
73	中国	個別短期	無	継続	S19	農業開発・農村開発	観光果樹園経営及び果樹栽培技術研修	Management of Tourist Fruit Farm and Cultivation Technique of Fruits (Short Term)	1	上	5/7	7/14	公益財団法人ひろしま国際センター	Hiroshima International Center	http://hiroshima-ic.or.jp/	崎岡 明子	SAKIOKA Akiko (Mr.)	hioc07@hiroshima-ic.or.jp	日本語で研修受講が可能な語学力を有していること。	不問	不問	不問	N3以上	不問	1.果樹(イチゴ、スモモ、ブルーベリー、モモ、ブドウ等)の先端栽培管理技術を習得する。2.加工技術と商品化、マーケティングのノウハウを習得する。3.観光果樹園の経営手法を習得する。	1.果樹栽培管理技術の向上、2.加工品の商品化、販路の開拓、観光果樹園経営の向上。	平田観光農園の業務に従事し、実習を積み重ねて技術を体得する(最も重要な開花期の受粉技術を習得する)。		
74	四国	個別短期	無	継続	S20	自然環境保全	寒冷条件下での自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	Research and edification on bio-composite materials in cold weather aiming the conservation of natural environment	2	下	下半期いずれかで相談可	1/26	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/	長谷崎 和洋	HASEZAKI Kazuhiro (Mr.)	hasezaki@tokushima-u.ac.jp	理系大学で在学中または卒業	大学卒業程度	不問	不問	不問	ポルトガル語で会話できる教員が在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問、スペイン語を話せる場合は、日本語能力試験N4以上(ただし、研修期間中の徳島大学が開催する日本語教室を必ず受講すること)。	全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。さらに、徳島大学の先端技術を知ること、日系社会の発展と移住先国の顕著に貢献できる新しい取り組みを検討する。	1.石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること。2.石油由来のプラスチックに代わるバイオ材料についての知識を得ること。3.最新のバイオ材料の研究動向を知ること。4.自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること。	1.調査:教員から個別のレクチャー、学術論文読解。最新の研究動向を文献ベースで調査し、問題点の抽出及び解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。大学院進学が可能なように研究指導を行う。2.試験計画策定:問題点を解決するためのバイオ複合材料の試作について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する。3.試作試験:バイオ複合材料の試作を行う。4.分析:適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。5.解析:まとめ:分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。	・応募締切は10月末日コースの締切日です。	
75	四国	個別短期	無	継続	S21	自然環境保全	高温多湿環境下での自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	Research and edification on bio-composite materials under high-temperature and humidity aiming the conservation of natural environment	2	上	上半期いずれかで相談可	9/15	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/	長谷崎 和洋	HASEZAKI Kazuhiro (Mr.)	hasezaki@tokushima-u.ac.jp	理系大学で在学中または卒業	大学卒業程度	不問	不問	不問	ポルトガル語で会話できる教員が在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問、スペイン語を話せる場合は、日本語能力試験N4以上(ただし、研修期間中の徳島大学が開催する日本語教室を必ず受講すること)。	全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。さらに、徳島大学の先端技術を知ること、日系社会の発展と移住先国の顕著に貢献できる新しい取り組みを検討する。	1.石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること。2.石油由来のプラスチックに代わるバイオ材料についての知識を得ること。3.最新のバイオ材料の研究動向を知ること。4.自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること。	1.調査:教員から個別のレクチャー、学術論文読解。最新の研究動向を文献ベースで調査し、問題点の抽出及び解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。自ら最新の研究動向を情報収集できるように研究指導を行う。2.試験計画策定:問題点を解決するためのバイオ複合材料の試作について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する。3.試作試験:バイオ複合材料の試作を行う。4.分析:適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。5.解析:まとめ:分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。	応募締切は5月末日コースの締切日です。	
76	四国	個別短期	無	継続	S22	社会保障	地域包括ケアシステムと在宅医療	Community-based integrated care systems and home health care	2	下	11/5	12/1	医療法人ゆうの森	Medical Corporation "Yuu no Mori"	http://www.tampopo-clinic.com/	本原 信吾	KIHARA Shingo (Mr.)	kihara@tampopo-clinic.com	日系社会で医療・保健・福祉分野に従事する者	不問	不問	不問	N3	不問	患者中心の視点で「生活の中の医療」「病気でなく人を守る」を心がけ、患者のニーズに応じた医療システム、在宅医療や介護サービスのご提案に不可欠な知識、技術、支援方法を習得すること。加えて、地域で最期まで暮らし続けることを支える様々な仕組みやシステムについても施設やサービスの現状あるいは実体験を通して学ぶ。併せて在宅医療を通じて、最期まで安心して暮らし続けることの出来る地域創生法を実例から理解する。	1.日本の高齢者福祉制度の全体像が理解される。2.日本の在宅医療の技術・知識が習得される。3.前2項を元に、自国で応用可能な介護技術・知識を整理する。4.高齢者施設の運営、管理について理解する。5.高齢者用住宅の利便性について理解する。6.高齢者に残されている力を使うケアについて理解し、応用できることを計画する。7.住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための包括的な地域医療(訪問医療・看護・リハビリ・介護等の包括的な展開)を理解する。8.へき地の診療所の取組みや地域との関わり方を理解する。9.帰国後の具体的な活動計画を作成する。	【内容】 1.講義 1) 高齢社会を支える在宅医療 2) 在宅緩和ケア 3) 在宅ケアシステム 4) 地域包括ケアシステム 2.実習 訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、鍼灸マッサージ、訪問介護などへの関与 3.見学 1) 在宅介護支援病院ホスピス・緩和ケア病棟 2) 高齢者施設、高齢者賃貸住宅 3) フロント現場、受付ステーション 4) へき地の診療所の取組みと地域医療(療養診療所) 4.演習 直面上している問題を分析、日本の手法の適応を検討、帰国後の活動計画の作成 5.発表 成果報告会 【カリキュラム】 以下のカリキュラムにおいて、研修内容の充分な理解と習得が行われることを目指します。 1.在宅医療全般についての講義と在宅での臨床研修 2.在宅ターミナルケアについての講義と当該患者様宅での臨床研修 3.在宅での看護、リハビリ、介護、鍼灸マッサージ等の臨床研修 4.地域医療とフィールドワーク(療養診療所) 5.医療連携、介護連携による地域包括ケアの講義と見学研修 6.高齢者施設の見学研修		
77	四国	個別短期	無	継続	S23	地域開発	よさこい踊り子チームのマネジメントを通じた日系社会の活性化	Japanese Community Revitalization through the Management of Yosakoi Dancers team	1	下	1/8	2/2	高知希望工程基金会	Kochi hope plans foundation	N/A	山中 茂	YAMANAKA Shigeru (Mr.)	chinatu6732@yhb.ne.jp	日系社会でのよさこい踊り子チームマネジメントを期待できる人材	不問	不問	不問	研修可能な日本語能力を有する者	不問	●現在所属するよさこい踊り子チームの総合的なマネジメント力のレベルアップを図る ●研修成果物であるよさこい踊り子の衣装、音楽、囃子、舞付を活用したアクションプランを創造する ●日本のよさこい祭り関係者との連携を通じて、現地チームの持続可能な運営モデルを構築する	●現在所属するよさこい踊り子チームの総合的なマネジメント力のレベルアップを図る ●研修成果物であるよさこい踊り子の衣装、音楽、囃子、舞付を活用したアクションプランを創造する ●日本のよさこい祭り関係者との連携を通じて、現地チームの持続可能な運営モデルを構築する	1.講義:「よさこい祭り」とよさこい踊り子チームの歴史と変遷 2.視察:囃子制作現場、よさこい衣装制作現場、よさこい音楽セレクト現場、よさこい舞付セレクト現場、高知よさこい情報交流館、高知城、高知城歴史博物館、龍馬のまちにゆかりの地 3.発表:日系社会の現状(カントリーレポート)、アクションプラン(研修成果報告) 4.その他:ホームビジット、地元青少年国際交流団		
78	四国	個別短期	無	継続	S24	教育	言語と文化の継承と教育技術向上実践	A Skill-Building Program for the Inheritance of and Education on Indigenous Languages and Cultures	2	上	5/7	6/6	高知県立大学	University of Kochi	https://www.u-kochi.ac.jp/	向井 真樹子	MUKAI Makiko (Ms.)	mukai@cc.u-kochi.ac.jp	日系移住子弟の教育を目的として設立された日英学校に勤務する教師。日本語・日本文化を学びたい方は、特に興味を喚起する。	不問	実務経験1年以上	不問	N3	不問	①地域の歴史、文化、慣習、言語(方言)の継承とその教育方法の技能習得並びに日本の言語科指導教育に関する知識の習得と教育実践力の向上 ②地域コミュニティの活性化に向けて日本語・日本文化を学びたい方は、特に興味を喚起する。	1.文化の継承を担う教師としての実践技術 2.言語の継承を担う教師としての実践技術 3.文化と言語の記録のための理論と技能	1.日英日本語担当教員としての専門知識と実践力の向上 2.日本語と日本文化を学びたい方、または日英日本語担当教員としての専門知識と実践力の向上 3.1日の振り返り、日本人学生・留学生との討論、成果発表、意見交換		
79	九州	個別短期	無	継続	S25	保健医療	早期胃癌の内視鏡診断と治療	Endoscopic diagnostics and therapeutics of early gastric cancer	3	上	上半期いずれかで相談可		国立大学法人九州大学	Kyushu University	http://plaza.umin.ac.jp/med/en/index.html	森山 智彦	MORIYAMA Tomohiko (Dr.)	iko.moriyama.153@kyushu-u.ac.jp	医師(内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下) 経験年数:医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上	大卒程度	2年	60歳以下	不問	技術研修は英語で実施	世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ。	●日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習得できる ●次世代型トレーニングモデルや豚切腹を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術と教育実践力の向上 ●帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ●インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する	●日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習得できる ●次世代型トレーニングモデルや豚切腹を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術と教育実践力の向上 ●帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ●インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する	1.講義:最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2.見学:九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3.実習:粘膜モルブチンから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4.学会参加:日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5.発表:病院内で研修内容を発表	応募締切は5月末日コースの締切日です。
80	九州	個別短期	無	継続	S26	保健医療	早期胃癌の内視鏡診断と治療	Endoscopic diagnostics and therapeutics of early gastric cancer	3	下	下半期いずれかで相談可		国立大学法人九州大学	Kyushu University	http://plaza.umin.ac.jp/med/en/index.html	森山 智彦	MORIYAMA Tomohiko (Dr.)	iko.moriyama.153@kyushu-u.ac.jp	医師(内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下) 経験年数:医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上	大卒程度	2年	60歳以下	不問	技術研修は英語で実施	世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ。	●日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習得できる ●次世代型トレーニングモデルや豚切腹を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術と教育実践力の向上 ●帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ●インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する	●日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習得できる ●次世代型トレーニングモデルや豚切腹を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術と教育実践力の向上 ●帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ●インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する	1.講義:最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2.見学:九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3.実習:粘膜モルブチンから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4.学会参加:日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5.発表:病院内で研修内容を発表	応募締切は10月末日コースの締切日です。
81	九州	個別短期	無	継続	S27	農業・農村開発	グリーンツーリズム	Agri-tourism (Green tourism)	3	下	10/1	11/1	鹿児島国際交流促進センター	Kagoshima International Exchange Promotion Agency	http://kapiic.jp/	渡邊 洋子	WATANABE Yoko (Ms.)	kapiic114@k3.synapse.ne.jp	グリーンツーリズムを実践している人、農・林・漁業関連の仕事および旅行業に携わっている人、または日系社会で婦人会内などの地域活動をしている人	高卒程度	3年	特に指定なし	N3	英語でのコミュニケーション可	グリーンツーリズムについての全般的な知識を得て、どのようなものであるか理解し、多様な形態や手法・技術を習得する。	1.講義:グリーンツーリズムの意義、日本(鹿児島)におけるグリーンツーリズムの現状と課題、農村女性の活用、グリーンツーリズム経営とリスクマネジメント、環境保全 2.実習:グリーンツーリズムの事例(産産体験、農産物加工体験、自然体験、農家民泊) 3.日本におけるグリーンツーリズムの事例を参考に、研修員が自国で実施可能なアイデアを得る 4.研修員が帰国後の具体的な実践計画を作成する	1.講義:グリーンツーリズムの意義、日本(鹿児島)におけるグリーンツーリズムの現状と課題、農村女性の活用、グリーンツーリズム経営とリスクマネジメント、環境保全 2.実習:グリーンツーリズムの事例(産産体験、農産物加工体験、自然体験、農家民泊) 3.日本におけるグリーンツーリズムの事例を参考に、研修員が自国で実施可能なアイデアを得る 4.研修員が帰国後の具体的な実践計画を作成する	1.講義:グリーンツーリズムの意義、日本(鹿児島)におけるグリーンツーリズムの現状と課題、農村女性の活用、グリーンツーリズム経営とリスクマネジメント、環境保全 2.実習:グリーンツーリズムの事例(産産体験、農産物加工体験、自然体験、農家民泊) 3.日本におけるグリーンツーリズムの事例を参考に、研修員が自国で実施可能なアイデアを得る 4.研修員が帰国後の具体的な実践計画を作成する	

2023年度日系社会研修研修コース一覧

所管センター	実施形態	修習年度 選択有無	区分	No.	分野	研修科目 和文	研修科目 英文	人数	受入 期 上 下	来 日 日	修 了 日	提案団体	提案団体 英語表記	提案団体 URL	担当者名	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経歴 年数	年齢	日本語 能力	英語 能力	①目標	②成果	③計画（内容）	備考
82	沖縄	個別短期	無	継続	S28	都市開発・地域開発 建築設計（意匠・構造及び設備）	Architectural Design (Design/Structural and Equipment)	2	上	6/18	7/17	株式会社志堅建築設計事務所	Gushiken Architectural Engineering Co., Ltd. Ginowan Branch Office	https://gushikena-e.net/	城間 俊	SHIROMA Suguru (Mr.)	uguru.shiroma@gushikena-e.net	大学の建築学科化都市計画課の卒業生	大学卒業程度	大学卒業3年以上	想定年齢30歳以下	日本語ができれば望ましいが、英語能力があれば対応可能	英語でのコミュニケーション	建築の設計・施工に関する、建物の機能性、安全性、適正な避難計画、耐震・環境対応策、これらに関する設備計画、また施工監理において基本的技術を習得する。	1. 日本における建築設計の基本的な技術全般を習得する。 2. 環境に対する建築的アプローチを日本のCASBEEや米国のLEEDから学習する。 3. その他研修員の希望する意匠計画、構造計画設備計画の研修を行い、必要な知識を取得する。	建築設計・施工監理に必要な技術を以下の研修内容で習得する。 1. 当社社員による各分野の講座にて、必要な知識を習得する。 2. 当社が抱える工事現場へ出向き、生の日本の工事技術・環境に触れる。 3. 当社が行った業種（施設）の見学、史跡や有名施設の視察を通じ、沖縄の環境を土台とした建築の成り立ちを習得する。	提案企業は、2015年から当該研修を実施。日本人をはじめ外国籍職員も多く、JICA研修員受入に加え、現大留学生を対象としたプログラムを英語／西語で実施している。建築、土木、電気設備に係る設計・施工をメインとした建築設計事務所であり、米軍からの受注も多く、技術的適応性、外国人を対象とした研修実績も多く、日系研修を支える重要な地域リソース。
83	沖縄	個別短期	無	継続	S29	農業開発・農村開発 花卉園芸の栽培技術及びフラワーアレンジメント技術研修	Flower gardening cultivation technology and flower arrangement technology training	3	下	10/1	12/22	農業生産法人 ANDES farm合同会社	ANDES farm Inc.	なし	伊藤 裕美子	IGEI Yumiko (Ms.)	andesnouen@gmail.com	農業に関心がある者	不問	不問	不問	日常会話で可能な程度 (NS)	不問	研修員が自国での花卉園芸の発展に貢献できる人材となるよう花卉園芸に関する基礎的な栽培技術等を習得し、農業経営の発展に寄与する事を習得する。ビカクシダ等胎生植物の栽培方法を習得する。フラワーアレンジや花束等技術を習得する。	1. 植物の育て方を習得する。さし木、取り木、挿分け、胎生栽培等の技術を向上する 2. 経営管理能力を習得する。販売方法を考察する。フラワーアレンジ、生け花等を体験。 3. 農業全般を体験し、帰国後、実践的な事業計画を作成する。	1. 講義・実習・視察 ・（講義）植物による育苗・育種の違い ・（実習）肥培管理の技術の習得 ・（実習）栽培管理の技術の習得 ・（実習）胎生栽培の技術の習得 ・（実習）フラワーアレンジメント、生け花の技術習得 ・（視察）農産物の加工施設等の視察 ・（視察）植物園、観光農園等の視察 ・（視察）直売所、道の駅等の視察 ・（その他）農業大学校、先進農家等の情報交換	